

この機関紙は、施設長用と職員回覧用の2部をお届けします。職員への回覧を忘れないようにしましょう。できるだけ職員に情報を提供し、サービスの向上を図りましょう。

第7号 平成8年('96年)10月19日

— 仮称 —

な い - ぶ

視情協通信 NAIIV

National Association of Institutions
of Information Service
for the Visually Handicapped

(発行) 〒550 大阪市西区江戸堀1-13-2 盲人情報文化センター内
全国点字図書館協議会事務局

(仮称 全国視覚障害者情報提供施設協議会)

TEL 06-441-0015 FAX 06-441-0039

発行責任者 川越利信

主 な 内 容

いよいよ岡山大会！	1
ブロック活動状況報告	3
委員会活動報告	11
DAISYフィールドテストに関して	23
フィールドテスト実施細目	23
備品購入申請説明書	26
(別紙) フィールドテスト参加申込書(タイプ、タイプ)	

いよいよ岡山大会！

—— 実り多い研修の場とするために ——

いよいよ第22回全点協岡山大会が目前に迫ってまいりました。

視情協通信(NAIIV)第6号でも同様のことを申し上げましたが、大会を実り多い研修の場とするために、特に第4号以降の通信(NAIIV)を必ずお目通しの上、大会にご出席ください。

なお、部会の一連の動きをより理解しやすくするために、本年3月に作成されました、平成8年度の事業計画の基本的な部分を再掲します。

平成8年度基本事業方針

テーマ：点字図書館ネットワークの構築、サービスの標準化

平成7年度～8年度の事業は、5～6年度に引き続き「点字図書館ネットワーク構築」となっております。この長期事業計画は下記の通り、平成6年度全点協大会（東京）の際、政策委員会において検討・決定されたものです。

長期（6か年）基本事業計画

点字図書館ネットワーク構築、2期4か年計画と
点字図書館の役割・機能の抜本見直し2か年計画

年 度	期	テ - マ
平成5～6年度	第1期	基礎の構築
平成7～8年度	第2期	システム形成・構築、サ - ビスの標準化
平成9～10年度	点字図書館の役割・機能の抜本見直し	

点字図書館ネットワークの構築は、長年努力してきましたネットワーク化推進運動の一環であることはいうまでもありません。重複をいかに避けるか、相互貸借をどうするかなどからはじまって、役割分担、人的交流など、ネットワークの内容は幅広い。有効なネットワークを形成するための標準化の作業には、加盟施設の相互協力が欠かせません。

点字図書館ネットワーク構築のために、いくつか大事なポイントがあります。そのひとつが、機械化です。コンピュータや通信システムを用いたマルチメディアの時代をにらんだ機械化を早急に成立させ、実用化することです。機械化の要は、「てんやく広場」です。既に全国で利用されている「てんやく広場」を軸に、点字図書館のネットワークを1日も早く確立させるべきです。そして、点字図書館の機能と役割をより発揮でき、視覚障害者にとっては利用しやすいシステムとなるよう研究し、併せて技術ならびに経済の確立・安定に向けて、協力し合う必要があります。

平成7年度は以上の基本事業計画に沿って部会活動ならびに全点協の事業を実施してまいりましたし、平成8年度においても変わりはありません。（3月30日に開催された政策委員会にて合意）

しかし、平成8年5月18日に開催された企画委員会において、本会の基本方針（平成5年からの2期4か年計画ならびに平成9～10年にかけての点字図書館の役割・機能の抜本見直し）は果たしていまなお有効なのか、今日的問い直しが必要との判断で検討を加えました。その結果、有効であるとの再確認をいたしました。

したがって、平成8年度においてもネットワークの構築を柱に事業の展開を図り、一方、平成9年度以降のテーマも視野に入れて、特に10月開催の第22回岡山大

会では、視覚障害者情報提供施設としての役割と機能、さらには将来の在りようについて自由に意見交換ができるよう、企画に工夫を加える予定です。(3月30日政策委員会、5月18日企画委員会にて合意)

また、本年度は、組織の基本的な整備を試みます。現在および将来において、本会がより確かな専門事業組織として視覚障害者の幅広い要望に応えられ、各地域における情報と文化の拠点となるよう、「点字図書館」という限定された概念から「視覚障害者情報提供施設」に脱皮しなければなりません。そして、施設機能・設備の充実や事業費等の増額などを図る必要があります。そのためには、部会・組織名称の変更、設置基準改正案作成の試み、部会・組織規定の見直しなども必要な作業となります。(3月30日政策委員会、5月18日企画委員会にて合意)

「行動する日盲社協」を標語に、法人は活発に行動を展開し始めています。この時期を逸することなく、部会の活性化をも図りましょう。

ブロック活動状況報告

東北・新潟・北海道ブロック

山形県立点字図書館 館長 磯野 任巳

9月5日～6日、山形市におきまして、ブロック内各館の館長及び職員並びに朗読、点訳のボランティアなど330名の参加をえて、ブロック会議を開催いたしました。

会議は館長会議、図書館部会、点訳奉仕部会、朗読奉仕部会の4部会にわかれて、図書館運営の諸問題の研究、情報交換等を行いました。特に点訳奉仕部会においては日盲社協 点字図書館部会 点訳委員会の水谷吉文氏を、朗読奉仕部会におきましては、神奈川県ライトセンターの姉崎久志氏を助言者に迎えて、ご指導いただき、有意義な研修となりました。

私どものブロックの会議は、従来から職員その他、ボランティアも一緒に参加しての会議で、初日に4つの部会に分かれての研究討議、翌日は一般教養的な講演と各部会の報告という日程で実施しました。

図書館部会、点訳奉仕部会、朗読奉仕部会は、特に技術的な問題の研究討議や情報交換が主流の、研修会的な要素の強い会議です。とすれば、今後はボランティアを含

め、実務担当者のレベルアップにつながるように、初日、2日目とも部会に分かれて徹底した研究討議の場としてはどうか。場合によってはOA機器を用いての研修にあてても良いのではないか等の話もでて、来年度からは従来の方式にこだわらずに職員、ボランティアのレベルアップにつながるような会の運営をやってみようということになりました。

なお、平成9年度は、8月下旬、秋田市において、ブロック会議の開催を予定しています。

関東ブロック

神奈川県ライトセンター 所長 小口 継明

【1】平成8年度役員会・拡大事務局会議

日 時 平成8年5月28日(火) 11:05 ~ 12:10

会 場 かながわ県民センター401会議室

議 事 1. 平成7年度事業報告・決算報告

2. 平成8年度事業計画案・予算案

3. 懸案事項(内規の改正)

(1) 会費の特別徴収

(2) 会費の値上げ

(3) 会長人事の輪番制導入後のブロック割り

4. 役員及び拡大事務局員の推薦

5. 関点協15周年事業

資料整理等実施の方向で拡大事務局会議で結めることとする。

6. その他

(1) 会則・内規等体系整備を拡大事務局会議で検討することとする。

(2) 日盲社協点字図書館部会の部会名称が変更されることが予測されるので、当協議会も名称変更を検討する必要がある。

【2】平成8年度総会

日 時 平成8年5月28日(火) 13:00 ~ 14:00

会 場 かながわ県民センター403会議室

出 席 16施設

欠 席 4施設

議 事 1. 平成7年度事業報告・決算報告

2. 平成8年度事業計画案・予算案

3. 内規の改正

4. 交通費支給内規の報告

5. 役員の選出

6. その他

- (1) 関点協15周年事業については、資料整理等実施の方向で拡大事務局会議で決めることとする。
- (2) 会則・内規等の体系整備については、拡大事務局会議で検討することとする。

7. 情報交換

横浜市社協情報センターから...NTT音声圧縮技術による朗読サービスを6月から試行実施する。

(役員一覧)

会長(理事)	小口継明(神奈川県ライトセンター)
副会長(理事)	青柳仁(茨城県立点字図書館)
監事	星田一雄(川崎市盲人図書館)
理事	若林浩哉(群馬県立点字図書館)
理事	田中徹二(日本点字図書館)
理事	橋本宗明(カトリック点字図書館)
理事	山下順三(横浜市社協情報センター)

【3】平成8年度春期研修会

日時 平成8年5月28日(火)14:00~16:00
会場 かながわ県民センター403会議室
出席 47名
内容 「どこまで広がるプライベート・サービス(2)」

- さまざまな可能性を求めて -

発表者 (1) 町田市立中央図書館 田中文人氏
公共図書館におけるプライベートサービス = 町田市立図書館の場合
(2) 神奈川県視覚障害援助赤十字奉仕団 間嶋和子氏
視覚障害者の誘導活動について
(3) 神奈川県視覚障害援助赤十字奉仕団 大八木麗子氏
視覚障害者在宅援助活動について

【4】平成8年度秋期研修会(予定)

日時 平成8年11月7日(木)~8日(金)
会場 つくばグランドホテル・茨城県自然博物館
内容 講演(1) 「ロービジョンについて」
久保明夫氏(国立身体障害者リハビリテーションセンター)
講演(2) 「題未定」
中川志郎氏(茨城県自然博物館長)
館長会議 総会時の懸案事項、その他情報交換
職員研修会 (仮題)「ロービジョンに対するサービスのあり方」

中部ブロック

岐阜訓盲協会点字図書館 館長 藤野 克己

1. 館長会議並びに職員研修会

期 日 平成8年9月12日(木)～13日(金)

主 管 点字図書館「明生会館」

会 場 三谷温泉・松風園

内 容 1. 館長会議(7年度事業・決算承認、8年度事業・予算審議、
9年度事業・予算審議、役員改選、日盲社協会費値上げ
について、職員の処遇について、情報交換など)
2. 点字担当職員研修会(点訳問題集・例文集の検討、情報交換)
3. 録音担当職員研修会(DAISYについて、情報交換)
4. 合同研修(DAISYについて)

出席者 13館・37名

2. 職員研修会並びにボランティア研修の集い

期 日 平成8年6月28日(金)

主 管 福井県視力障害者福祉協会点字図書館

会 場 福井市市民福祉会館

対 象 サービス担当職員、点訳ボランティア、音訳ボランティア

テーマ 第1分科会(サービス担当職員) サービス業務を通じて考えたこと
第2分科会(点訳ボランティア) 図表の点訳
第3分科会(音訳ボランティア) 音訳の配慮事項

出席者 職員12館・18名

ボランティア164名

3. 「てんやく広場」に関する事業

引き続き、「てんやく広場」の事業をブロック全体として取り組んでいる。ブロック加盟15館のうち、PC(プリンティングセンター)10館、子供センター(PCを経由して広場を利用する施設)3館、その他2館となっている。子供センターについては、担当PCを決め、データのアップ・ダウンの窓口となっている。なお、「てんやく広場」の中部ブロックとしての事務局を名古屋盲人情報文化センターに置いている。

4. 録音図書製作着手情報について

引き続き、着手及び完成図書の情報を交換し、重複製作の防止及び録音図書の相互利用を促進している。なお、前年度に引き続き、この事業の事務局を名古屋盲人情報文化センターに置いている。

(今後の予定)

5. 第4回パソコン基礎講習会の開催

「てんやく広場」を広く活用するため、通信を中心としたパソコン基礎講習会を

年度内に開催する。実施に当たっては、名古屋盲人情報文化センターを中心に企画し、各館のニーズに応じた研修プログラムを作成して行う。

6. 「中部通信」の発行

第22号・第23号

今年度から製作館を1年毎に持ち回りとし、初年度は富山県視覚障害者福祉センターが担当する。

【平成9年度活動計画】

1. 館長会議並びに職員研修会

期 日 平成9年7月

主 管 富山県視覚障害者福祉センター(宮田孝男・所長)

会 場 富山市内

内 容 1. 館長会議
2. 点字担当職員研修会
3. サービス担当職員研修会

2. 職員研修会並びにボランティア研修の集い

期 日 平成9年6月

主 管 岐阜訓盲協会点字図書館

会 場 岐阜訓盲協会点字図書館ほか

内 容 1. 録音担当職員研修会
2. 点訳ボランティア研修会
3. 音訳ボランティア研修会

3. 第5回パソコン基礎講習会

「てんやく広場」の積極的な活用を図るため、サービス及び録音担当職員等を対象とした講習会を、「てんやく広場」中部ブロック事務局を中心に企画・実施する。

4. 「てんやく広場」に関する事業

パソコンを使った点訳により、利用者に速く資料を提供するとともに、データをホストに登録して全国の共有財産として相互利用を進める「てんやく広場」の事業を、引き続きブロックとして積極的に推進する。また、「てんやく広場」未加盟館の加盟実現に向けて努力する。なお、中部ブロックとしての「てんやく広場」事務局を、引き続き名古屋盲人情報文化センターに置いて、ブロックとして足並みをそろえてこの事業に積極的に取り組む。

5. 録音図書製作着手情報について

引き続き、着手及び完成図書の情報を交換し、重複製作の防止及び録音図書の相互利用を促進する。なお、この事業の事務局を、引き続き名古屋盲人情報文化センターに置く。

6. 「中部通信」の発行

第24号・第25号

9年度は、石川県視覚障害者協会点字図書館が企画・編集・製作を担当する。

近畿ブロック

日本ライハウス盲人情報文化センター 館長 川越 利信

加盟館 46館(点字図書館13館、公共図書館33館)

【1】名称に関して

平成8年度総会にて会則を変更

名称：近畿点字図書館研究協議会

近畿視覚障害者情報サービス研究協議会(近畿視情協)

33館を占める公共図書館の加盟を考えると、「点字」を名称に使うのは、現状にそぐわない。また、日盲社協点字図書館部会の名称変更も視野に入れ、そして、今後のボランティアグループなど情報提供団体の加盟を考えた場合、幅を持たせた名称が望ましい。

ただし、加盟施設の行政関係書類の関係から、11月1日より新名称を使用。

【2】活動内容

図書館サービス委員会

1. 情報交換

参加各館の活動状況の報告などを交じえながら、情報交換を行う。

2. 研修(学習会)

資料、ビデオなどの教材を使った学習会。

講演会

施設見学会

3. 調査研究

『視覚障害者サービスマニュアル』の改訂。

平成9年3月改訂版発行予定(昨年作成した350部は完売)

加盟館の障害者サービスに関する実態調査。

(調査のための委員会活動とならない範囲で行う。)

録音製作委員会

1. 情報交換

参加各館の活動状況の報告などを交じえながら、情報交換を行う。

2. 技術研究

録音図書製作のための録音技術、各種処理などの検討。

3. 製作に関するアンケートの実施

ボランティアの状況、意識に関する調査などを実施。

他、各種研修会

運営研究会 施設長の研修。

職員研修会 各委員会が担当し、活動の報告、発表を行う。

ボランティアの集い 視覚障害者への認識のために、テーマを設けて講演会を行う。
と同時に、点字、録音図書の作成についての技術研修を行う。

【3】平成8年度行事

録音製作委員会 4月17日、6月19日、8月21日、10月16日、12月18日、2月19日
図書館サービス委員会 5月15日、7月10日、9月11日、11月13日、1月8日、3月12日
ボランティアの集い 11月15日
職員研修会 2月19日

中国・四国ブロック

ライトハウス・ライブラリー 館長 金津 和栄

日時 平成8年5月30日(木)～31日(金)
主管 愛媛県視聴覚福祉センター
参加人数 26名
内容 (1) 役員会
(2) 施設見学(愛媛県視聴覚福祉センター)
(3) 総会 永年勤続職員等の表彰
平成7年度事業報告及び収支決算
平成8年度事業計画及び収支予算
平成8年度新役員
(4) 講演「お年寄りのあれこれ」
講師 特別養護老人ホーム第二権現荘
所長 吉田 擴氏
(5) 館長会議
職員研修会(点訳部会)
パソコン点訳の問題点と改善策
ボランティアの研修会参加費用の援助
(6) 全体会議

【平成9年度活動計画案】

日時 未定
主管 岡山県視聴覚障害者福祉センター
内容 (1) 役員会 年2回
(2) 総会(表彰 事業及び決算報告 計画及び予算)
(3) 講演 未定
(4) 館長会議
(5) 職員研修(録音部会)
実務に即した専門的な技術研修として職員相互のレベル
アップを図りたい。(講師未定)
(6) てんやく広場のブロック会議

九州ブロック

熊本県点字図書館 館長 西田 洋一

九州ブロックは、昭和60年に九州点字図書館協議会として正式に発足し、現在、14施設加盟の組織として運営、活動を行っております。

通称九点協は、各施設長を理事として、点訳研究委員会、音訳研究委員会、情報サービス研究委員会という、職員で組織する3つの研究会を設け、情報交換、専門分野についての研修会等を開き、相互の交流と研鑽を図っております。

今年度の活動としましては、4月17日～18日、1泊2日で、恒例の年度当初の理事会を熊本県点字図書館の主管で開きました。過年度報告と今年度活動計画を承認し、九点協要覧項目検討準備をいたしました。

また、9月12日～13日に、沖縄県の主管で、第10回九州点字図書館大会を開催いたしました。ボランティア、職員、関係者約260名が緑と太陽の島、南国沖縄に集い、10回という節目の大会にふさわしい盛会な大会となりました。

今大会は、全体研修として、JBS日本福祉放送代表の、恵美三紀子先生を招聘し、「情報提供施設としての点字図書館のあり方」というテーマで講演していただき、その後、職員、利用者の立場からの活動状況報告、質疑応答という形で進行されました。貴重な意見が、それぞれの立場から発表され、今後の活動に問題提起され、本当に意義ある大会となりました。

2日目は、永年活動活発な奉仕者へ感謝状を贈り、永年勤続職員への表彰等の後、地元琉球大学教授、高良倉吉先生から「アジア貿易と首里城」と題して講演をしていただきました。

大会終了後、各職員研究委員会研修会を開催し、当面する諸問題について研修をして、情報交換を行いました。

特に、館長研修会では、「てんやく広場」の組織の再編について検討をし、広場ブロック会議を計画する一方、情報サービス委員会の研修の一貫として、広場研修の内容も合わせて、今後、研修会を持つよう検討しました。

平成9年度、九点協の活動計画としましては、「てんやく広場」の組織再編に伴い、九州地区に、広場ブロック会議を発足させる一方、情報サービス委員会の研修の中に広場研修の内容も併せて研修会を持つよう検討します。

4月に開催される理事会に併せて、「広場会議」を開催し、中央情勢の吸収と地方よりの状況を上げるパイプ役を果たせるシステムにしたいと計画しています。

9月には、福岡県(参加3施設)の主管で、第11回九州点字図書館大会を開催し、ボランティアへの感謝と研修の機会として、そして職員研修の場として、この大会を有意義に実施することを計画しております。

この大会は、多様化する情報社会の中で、その提供施設としての、特に時代の流れに即した点字図書館の今後のあり方が問われる意味において、重要な研修の場として位置付けております。

又、貸し出し促進活動として、最新録音図書情報を各館に配布する一方、館広報などの交換も行い、情報交換と利用者拡大に向けての活動にしたいと計画しています。

委員会活動報告

点訳委員会

石川県視覚障害者協会点字図書館 細川 啓子

1. 委員会開催状況

- | | |
|-----------|--------------------------|
| 6月6日 | 中部地区小委員会 |
| 6月12、13日 | 関東地区小委員会 |
| | いずれも点字指導員資格認定講習会課題文の審査 |
| 6月26日～28日 | 議題1 第16回点字指導員資格認定講習会について |
| | (1) 課題文の正答確認 |
| | (2) 課題文総合審査、受講者の決定 |
| | (3) 認定試験問題の決定 |
| | (4) 認定講習会の準備、役割分担 |
| | 2 「点訳例文集」について |
| | 例文集の問題文と正答のチェック |
| | 3 来年度点字指導員研修会について |
| 9月11日 | 関東、中部小委員会 |
| | 点字指導員資格認定試験審査 |
| 10月2日～4日 | 議題1 第16回点字指導員資格認定講習会について |
| | (1) 試験問題の正答確認 |
| | (2) 試験問題の総合審査、認定者の決定 |
| | (3) 認定保留者のアフターケアについて |
| | 2 平成9年度点字指導員研修会について |
| | 日程と研修内容、講師等の検討 |
| | 3 「点訳例文集」について |

2. 点字指導員資格認定講習会

8月21日～23日の3日間に亘って、第16回点字指導員資格認定講習会を大阪メルパルクで開催した。定員50名のところ152名の申し込みがあり、課題文の審査で79名の受講者を決定した。内訳はボランティア54名、盲学校職員10名、点字図書館などの職員15名だった。講習会は8講義を受講後、校正問題の試験、持ち帰りの点訳問題と厳しい内容であったが、受講者は熱心に講義を聞き、試験問題に取り組んでいた。今年は当日試験を実施したため、受講者からは時間が足りなかったなどの意見が聞かれた。試験問題を審査したが、当日行われた校正問題が相当に悪く、今までになく低い合格率となった。パソコン点訳がすすみ、かなで

点字を読んでしまい、点字そのものを読むという場が少なくなったため、こういう結果になったのではと分析した。点字指導員が点字を読むことが不得意になる傾向が見られ、今後の課題と思われる。

3. 「点訳問題集 例文編」の発行

94年度から作業を続けていた例文集が今年度に発行の見通しとなった。これは、点字指導員資格認定講習会の課題文や試験問題をまとめたもので、ボランティアの養成や研修、視覚障害者への点字指導の練習文として利用してもらう予定。内容は、例文が30で、墨字で約30ページ、点字解答が130ページ程度で、視覚障害者向けにテープ版の問題文も製作し、来年3月発行予定。

4. 平成9年度点字指導員研修会について

点字指導員の資質向上、パソコン点訳などの新たな点字製作に対処する技術習得を目的として、平成9年8月27日(水)～29日(金)東京で開催の予定。定員は50名とし、受講資格は点字指導員資格認定者とする。

内容は、視覚障害者の情報アクセス、国文法、点字データの編集と管理、点字表記各論、校正、講習会カリキュラム等の講義のほかに、点訳実技(特殊点訳)、指導実技などの実践的な研修に重点を置く予定。

5. 点字資料製作の今後の課題

点字資料が点字器やタイプライターによる製作から、パソコンによる製作にかわってきた段階で、点字資料製作全般について種々の問題点が指摘されるようになった。ここでその問題点について述べ、今後の委員会活動の方向を検討したい。

(1) 養成形態の変化

ボランティアに対する点字指導は、点字器を使い50音や分かち書きなどを初歩から行ってきたのが一般的である。ところが、パソコンによる点訳が大幅に増えてきた現在、施設によっては初めからパソコンを使った講習をすることも出てきている。又、ボランティア希望者も家庭にパソコンがあることから、それを望む者も少なくない。それに対して指導者側ではそのための指導法が確立していない現状である。このままでは点字を読めない点訳ボランティアが多くなるだろう。

また、地域の社協やグループなどのボランティア養成を活発に行うための、短期講習会が各地で開催されているが、その講習を受けた後の活動の場が用意されていないとの指摘がある。

近年多くなった高校や大学の福祉コースでの点字講座に対処するカリキュラムが充分でなく、時間をかけた割に効果が少ない傾向にある。また、点字指導職員は各地の講習会で非常に忙しい状況が見られる。

(2) 点字指導員

点字指導員は、点字の仮名遣い、分かち書きなど、点字についての知識を学び、養成を行ってきたが、これからの点字図書館の指導員には、加えて、各種点訳ソフトの知識、データの変換、パソコンについての知識など、多くの新しい知識を求められるが、それを研修する場と時間が不足している。またそれがないために、せつ

かくボランティアがパソコン点訳をしたいと希望しても、指導員が拒否する場合も見られる。また、反対にパソコンの知識を持った職員が指導にあたり、点字の知識について充分指導できない場合も見られる。

(3) 点字資料

パソコン点訳は入力が早くでき、その訂正も簡単なため、従来に比べると読み方や分かち書きに関する調査が不十分になってきている。また、手で書いた時には考えられなかった単純な仮名づかいの間違いが多くなっている。

パソコンによる点訳の普及とボランティアの増加から、図書館の蔵書点訳だけでなく、個人サービスの割合が多くなっているが、依頼される資料は、医学、情報処理、その他専門的なものが多くなっており、それらの点訳技術習得の場が必要である。また、データ変換などで点訳して、点訳状態が相当悪い資料も見られる。資料の種類によって早さと正確さのバランスをどう考えるか検討が必要である。

また、地域で養成されたボランティアが、ボランティアとして活動の場を提供されないことから、本来行政が発行すべき、点字広報や種々の案内をボランティア活動として、無償あるいは実費で提供している地域もある。そのため、住んでいる地域での情報サービスの格差が多くみられるようになった。

(4) 校正

パソコン点訳によって点訳する時間が短縮し、今まで以上に校正する量が増えたにもかかわらず、校正は人手に頼る状況にあるため、せっかく早くできたものが、この時点で非常に遅くなっている。また、早く製作しようとする、校正が雑になり、間違いの多い資料となる。ほとんどの校正担当者は、パソコンの画面で校正する方が早い、紙に点字を打ち出した方が正確に校正できると指摘している。この問題はパソコン点訳が始められてすぐ指摘されているのになんら解決されていない。

(5) 重複製作

点字資料のデータ化により複数の製作が可能になり、また「てんやく広場」や国立国会図書館の総合目録のCD-ROM化によって、資料の重複製作が大きく取り上げられるようになった。確かに同一資料は2、3点あればその中から選択して提供するのが、最良の方法と思われる。

ここで、製作の立場から問題点をあげると、まず、自館で製作中の資料がよそで複数できた時に、製作を中止できるかという点である。その資料が製作のどの段階なのかによっても違うが、情報サービスという点から言えば、早くできたものを提供すべきであり、製作にとっても提供した後にできた資料は無駄であり、即製作を中止して、違う資料の点訳にかかった方が有効と思われるが、この過程のボランティアへの理解をどう求めるかは、検討されていない。また、製作担当者も自館で製作した資料の方が質が高いという観点から、容易に中止しない傾向がある。

着手情報を有効に利用するという点については、それぞれ図書館の製作状況の違いから、着手情報を知らせるための製作期間のめどが付けにくい点があげられる。点字製作担当者は、重複製作を避けるため、これらの問題を早急に検討する必要がある。

(6) 資料の提供

手製の資料の場合は、その利用は点字を指で読むものであったが、点字データでの提供により、それを音声化して聞く利用法が増えてきた。この傾向はピンディスプレイが安価で提供されない限り、ますます増えると思われる。音声での利用に関しては、正確な分かち書きの必要はなく、意味の理解ができる程度のデータで充分という意見も利用者から聞かれる。また、資料製作に関しても、音声で利用する時に聞きにくいから、レイアウトを変えるという資料もでてきている。この点に関して、点字データとは何なのか、視覚障害者への情報提供はどうあるべきなのか、サービス担当者だけでなく、製作担当者も考える必要がある。

(7) 資料の保存

点字資料は非常にかさばり、多くの図書館の書庫が満杯状態にある。点字データをプリントすれば資料が提供できるため、サービスが活発になればますます点字資料が増えることになる。そこで製作した点字データをどういう形で保存するか、点字本の形なのか、ディスクで保存し必要な時にプリントする方式がいいのかなど検討が必要である。また、各館で共通した点字資料(厚生省委託図書など)については、デポジット化などを考えないと製作しても保存が難しいという状況になりかねない。

このように、点字資料製作にあたって周辺事情も含め、多くの課題が山積している。点訳委員会としては、各委員会等と協力して来年度に向けて、新たな観点からの取り組みが必要と思われる。

【平成9年度事業計画】

1. 主な事業

- ・平成9年度点字指導員研修会
- ・校正問題集の編集・発行
- ・点字指導における各種カリキュラムの作成

2. 点訳委員会開催予定

委員会 4回程度(2泊3日)
 地区別小委員会 日帰り 2回程度

3. 予算案

委員会	2泊3日	3回	8名	670,000円
	1泊2日	1回	8名	160,000円
小委員会	1日	4回	4名	70,000円
校正問題集編集費ほか				100,000円
計				1000,000円

サービス委員会

日本点字図書館 小野 俊己

サービス委員会では、毎年「点字図書館の実態を明らかにして問題を探り、その解決策を検討し、図書館サービスの向上を計るため」職員・蔵書・雑誌・利用者・貸出・相互貸借・その他の業務・経費・点訳者・音訳者・点写者等にわたって調査を行っています。この調査では、点字図書館の、年毎の蔵書推移・貸出推移などをはじめ、各館の活動状況を読み取ることも可能です。今年で、実態調査は14回目をむかえました。上半期は以下の内容で委員会を開催しました。

第1回委員会

- (1)前年度のまとめと反省
- (2)新年度の活動に関して
- (3)実態調査項目の検討
- (4)その他(調査以外の仕事に関して等)

第2回委員会

- (1)14回調査回答内容の不明点、問題点の検討 その1
- (2)サービス見直しの検討 その1
- (3)児童用点字図書の利用に関する調査に関して その1
- (4)その他(調査作業マニュアルに関して等)

第3回委員会

- (1)14回調査回答内容の不明点、問題点の検討 その2
- (2)サービス見直しの検討 その2
- (3)児童用点字図書の利用に関する調査に関して その2
- (4)その他(「点字雑誌一覧」「録音雑誌一覧」の活用に関して等)

毎年発行しているこの報告書『日本の点字図書館』をご覧になって、図書館サービスがこの14年間どのように変わってきたのかをご確認いただきたいと思います。

なお、委員会からのお願いですが、実態調査について

- (1)提出期限をお守り下さい。
- (2)かならず、前年度(できれば前々年度も)の数字と比較してご記入下さい。特に上記2点をよろしくお願い致します。

【1997年度活動計画項目】

1. 第15回全国点字図書館実態調査
2. 上記調査の集計・分析及び報告書作成
3. 「点字雑誌一覧」「録音雑誌一覧」「サービス一覧」編集・発行
4. その他(点字図書館サービス等の見直し・検討)

【予算】

委員会年6回開催(1泊2日)

1人 @27,000円(交通費、宿泊費、食費) × 6名 × 6回 計972,000円

データ入力外注費(校正・修正)

@850 × 100時間 × 2名 計170,000円

諸経費(切手、用紙、コピー、電話、会場費)

@10,000 × 6回 計60,000円

合 計 1,202,000円

注:この他に実態調査や報告書等の郵送費及び報告書(墨字版・点字版)製作費等は例年の経費が必要です。

機械化委員会

長崎県立点字図書館 辻郷 美太郎

委員会開催状況は以下のとおり。

第1回 平成8年5月26日(土)～27日(日)

第2回 平成8年8月20日(火)～21日(水)

第3回 平成8年9月30日(月)～10月1日(火)

目 的

書誌データの標準化と館間貸出しを推進し、利用者サービスの向上を目指すため、点字図書館で利用できる図書目録(書誌データ)管理システム(仮称)の開発及び普及を行う。

活動状況

今年度は、これまで3回の委員会を開催し、システムの基本構想の検討、データベース項目の確認及び見直しを行った。

また、システムのテスト版を作成し、全点協岡山大会において、デモンストレーションを行い、その後、引き続きシステムの完成度を高めるため、モニター館を募りモニターからの評価をとりまとめた上で、システム及びマニュアルを完成させる。

今後は、「てんやく広場」及び他の委員会等との連携が課題になっていくと思われる。

【平成9年度活動計画(案)】

1 モデル地区で研修会開催

九州地区、中部地区の2地区で1泊2日の研修会を開き、指導できる人を養成する

2 来年度の予算要求

モデル地区研修

九州地区	30万
中部地区	20万
システムバージョンアップ	20万
ノートパソコン1台	40万
合計	110万

録音委員会

日本ライトハウス盲人情報文化センター 村井 晶人

委員会委員	委員長	村井 晶人	日本ライトハウス盲人情報文化センター	
	委員	天野 繁隆	日本点字図書館	
		矢口 町子	茨城県立点字図書館	
		恵美 三紀子	JBS日本福祉放送	
		姉崎 久志	神奈川県ライトセンター	
		熊谷 成子	静岡県点字図書館	
		兄父 由紀子	福井県視力障害者協会点字図書館	
		特別委員	河村 宏	東京大学総合図書館
			池田 防守	プレクスター株式会社

昨年度までの委員、小暮淳氏（滋賀県立点字図書館）は所属が変わり委員を辞退されましたので、本年度より熊谷成子氏（静岡県点字図書館）に新委員をお願いしています。また、河村宏氏には本年度よりデジタル化推進のため特別委員として参加していただいています。

活動のポイント

録音委員会の平成8年度の活動は、昨年度に引き続き二つの大きなポイントがあげられる。

1. 音訳指導技術講習会（第1回 音訳指導員資格認定講習会 後期）の実施。
2. 録音図書のリニューアルの検討及び推進。

【音訳指導技術講習会】

音訳指導員資格認定講習会については、すでに開催要項として各館にご通知していますが、実施日、場所は下記の通りとなっています。

第15回音訳指導技術講習会（第1回 音訳指導員資格認定講習会 後期）

日時 平成8年11月27日（水）12時～11月29日（金）17時

会場 お茶の水スクエアA館 2F ルーム6

〒101 東京都千代田区神田駿河台1-6

TEL 03-3294-3131 FAX 03-3294-2472

講義	教育原論	小林一弘	元盲学校長会会長
	編集技法	姉崎久志	神奈川県ライトセンター
	日本語音韻論	王 伸子	専修大学助教授
	ボランティア活動論	村井晶人	日本ライトハウス盲人情報文化センター
	音訳評価法 1、2	河合和美	名古屋ライトハウス盲人情報文化センター
	音訳教育法	恵美三紀子	日本福祉放送

今回の受講者は前期(62名)、新規受講者(8名)を合わせて70名。

【録音図書デジタル化】

本年度に入り、財団法人テクノエイド協会からプレクストークに関する研究費補助が決定し、「デジタル音声情報システム促進委員会」が発足。

「デジタル音声情報システム促進委員会」

目的：デジタル音声情報システムの標準化、実用化の促進。

内容：日本から世界への情報発信・提案をもとに「デジタル音声情報システム(録音図書)」の開発と標準化の促進と、国内的、国際的普及に関する基本的な調査、審議を行う。なお、専門委員会を設け、技術的、実務的な調査、検討を行う。

構 成

委員会委員

委員長	社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会	理事長	板山賢治
委員	全国点字図書館協議会	会長	川越利信
	社会福祉法人 日本盲人会連合	会長	村谷昌弘
	全国盲学校長会	会長	林 正義
	IFLA/SLB 東京大学総合図書館国際資料室		河村 宏
	社団法人 日本図書館協会	事務局長	酒川令子
	国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所	所長	山内 繁
	社会福祉法人 日本点字図書館	常務理事・館長	田中徹二
	シナノケンシ株式会社	取締役副社長	金子元昭

専門委員会

委員長	IFLA/SLB 東京大学総合図書館国際資料室		河村 宏
副委員長	シナノケンシ株式会社電子機器事業部	副事業部長	草野一俊
副委員長	財団法人 日本リハビリテーション協会	企画情報部長	丸山一郎
	社会福祉法人 日本盲人会連合	情報部長	牧田克輔
	全点協 録音委員会	委員長	村井晶人
	社会福祉法人 日本点字図書館	課長	天野繁隆
	社会福祉法人 名古屋ライトハウス	音訳指導員	河合和美
	社会福祉法人 埼玉点字図書館		樫浦勝彦
	静岡県立静岡大学	助教授	石川 准

大学入試センター 研究開発部特殊試験部門	助教授 藤芳 衛
シナノケンシ株式会社 電子機器事業部	課長 西澤達夫
T P B スウェーデン国立点字図書館	Mr.Kjell Hansson
R N I B 王立盲人援護協会(イギリス)	Mr.Chris Day
W B U 世界盲人連合(ウルグアイ)	Ms.Norma Toucedo
E B U 欧州盲人連合(オランダ)	Mr.Jaap van Leliveld

オブザーバー

厚生省大臣官房障害保健福祉部	専門官 寺島 彰
----------------	----------

事務局

事務局長	プレクスター株式会社	常務取締役	池田防守
	IFLA/SLB 東京大学総合図書館国際資料室		河村 宏
	財団法人 日本リハビリテーション協会	企画情報部長	丸山一郎

事務局所在地 〒110 東京都台東区上野7-7-6 上野YHビル7F

プレクスター株式会社

TEL 03-3847-8281 FAX 03-3847-8288

録音委員会はこの委員会と協力する形で、デジタル化の検討を進めています。

PLEXTALK(プレクストーク)は現在Ver.4となり、細部を残してほぼ完成の域に達しているのではないかと考えられます。本年暮れに実施されるフィールドテストの結果をもとに最終的な製品として完成される予定です。

一方、DAISY(デイジー)も並行して開発は進んでいて、今年中にはVer.1が完成する予定です。内部委員(特別委員を除く)の所属する施設で、現在のベータ2のバージョンを保有している施設は、日本点字図書館と日本ライトハウスの2館のみで、他の委員は実際の操作を殆ど行っていないため、細部の検討にまでは至っていないのが現状です。

ただ、内部委員の意見として共通する部分は、ボランティアが使うことを前提にすると、従来のテープレコーダー(デッキ)の操作に近づける必要があるということです。たとえば従来のテープレコーダーの操作ボタン(再生、早送りなどのシンボルマーク)は誰もが慣れているものなので、表示を従来のテープレコーダーに合わせる、編集機能としてハサミの機能(特定部分を指定して削除する機能)が欲しいなどの意見も出つつあります。また、パソコンを録音機に使うことで、ハードディスクの回転音、冷却ファンの音などのため、パソコンを録音室内に持ち込むことが出来ず(ノートパソコンの場合は、冷却ファンのノイズはないものの、ハードディスクへの書き込み音が出る)、日本で日常行われている、「録音室内にテープレコーダーを持ち込んで録音」という録音形態を再考する必要に迫られています。

そのほか、カセットテープとCDを並行して作成することでの経済的、人的負担の増加など、特定の施設内で従来の一貫した製作設備を持つことが本当によいのか等々情報製作提供施設側として検討すべき課題が多く残されています。

【平成8年度活動日時とおもな内容】

第1回録音委員会

日時：平成8年5月9日(木)13:30～10日(金)13:00

場所：日本ライトハウス盲人情報文化センター

- 内容：1.音訳指導員資格認定講習会(後期)の準備、進捗状況の確認、実施内容の確認
2.音訳講習テキストについての検討。
3.全点協岡山大会についての検討
4.IFLAの動向についての説明
5.DAISYの操作についての説明
6.委員の補充について

第2回録音委員会

日時：平成8年9月14日(土)13:30～15日(日)16:00

場所：日本点字図書館会議室(14日) JBS日本福祉放送(15日)

- 内容：1.DAISYの開発状況報告
2.全点協岡山大会の内容検討
3.音訳指導員資格認定講習会の細部検討
4.音訳講習テキストの検討

(今後の予定)

10月23日(水)～24日(木) 第3回録音委員会

11月27日(水)～29日(金) 第15回音訳指導技術講習会

(第1回音訳指導員資格認定講習会 後

期)

平成9年2月(日時、場所未定) 第4回録音委員会

【平成9年度 活動方針(案)】

事業内容

平成9年度は、音声のデジタル化推進のために、委員会に新たなブロックから選出した委員を中心としたデジタル検討推進班(仮称)と音訳指導員のための資格認定講習会実施を中心とした音訳資格認定講習班(仮称)の二つの班を中心とした活動体制に録音委員会の組織を改めたい。

デジタル検討推進班

1. DAISYの改良のための検討

より使いやすいDAISYとするための意見の集約、提案

2. 今後のデジタル関係機器の調査、研究

デジタル録音システムに関する機器の調査、研究

3. デジタル化を前提とした、ネットワーク体制のあり方の検討

従来のカセットとCDの並行した図書を作成する場合の、各館の人的、経済

4. 各ブロック内でのデジタル化のための相談、指導

プレクストークを使うに当たってのパソコンの選択、DAISYの使用方法についてのブロック内担当者への研修会の実施など

音訳資格認定講習班

1. 音訳指導員資格認定講習会の実施

指導員資格認定制度を通じて、音訳図書在全国標準化を図る。

2. レコーディングマニュアルの改訂の検討

デジタル機器の操作面に関する記述を盛り込むための検討を始める。

・製作基準 ・機器操作

【予算】

デジタル検討推進班(6ブロック+3名)

年2回(2泊3日)の開催 ￥1,184,000

(宿泊=￥162,000 + 交通費=￥350,000 + 会議費=￥50,000
+ 事務費=￥30,000) × 2回

2泊3日としたのは委員がブロック選出のため、交通費が高額となる。従って1回の内容を濃くするために2泊3日とした。

音訳資格認定講習班(6名)

年4回(1泊2日) ￥896,000

(宿泊=￥54,000 + 交通費=￥80,000 + 会議費=￥40,000
+ 事務費=￥50,000) × 4回

「てんやく広場」特別委員会

岐阜訓盲協会点字図書館 館長 藤野 克己

1 会員数(1996年10月13日現在)

プリンティングセンター 67(内、全点協加盟館 57)

施設利用会員 20(内、全点協加盟館 1)

個人利用会員A(視覚障害者) 317名

個人利用会員B(点訳ボランティアなど) 42名

2 96年度上半期活動報告

(1) 96年度総会の開催

7月4日・5日 於・京都

新組織の承認、役員選挙、班活動の開始

96年度の重点事業: 目録の整備

(2) 班活動

サービス班、目録班、点字班、パソコンサポート班

(3) 新システム開発への取り組み

書籍管理特別委員会

名古屋盲人情報文化センター 館長 金森 義忠

全国点字図書館協議会で取り扱っている書籍は以下の通りです。購入申込は名古屋ライトハウス盲人情報文化センターまで。

書籍名	販売価格	販売数
点訳のてびき	800円	10,779冊
読み方練習文	400	651
問題集(基礎編)	200	2,016
問題集(応用編)	280	862
解答集(基礎編)	350	183
解答集(応用編)	550	120
活動するあなたに	2,200	792
音訳例文集	550	183
点訳のてびき(点字版) 点字図書給付制度 利用の場合 利用しない場合 (東京ヘレンケラー協会 点字出版局作成販売)	800 5,000	

販売数は平成8年4月1日～9月30日のもの。

「点訳例文集」は平成9年3月頃発行予定。(詳細は点訳委員会へ)

DAISYフィールドテストに関して

先にお知らせしていましたがDAISYならびにPLEXTALKのフィールドテストに関する実施細目が、デジタル音声情報システム促進委員会から届きましたので、お知らせします。詳細な説明は、岡山大会の分科会(10月24日)で行う予定になっています。フィールドテストに参加を希望される施設は、予め資料を十分お読みになり、当日の説明をお聞きの上、直接、デジタル音声情報システム促進委員会へお申し込みください。

また、次年度予算で機材の購入をしたいが、機器の選択などを含めた説明資料がほしいという要望も聞いています。委員会で作成したものができあがっていますので、掲載します(備品購入申請説明書)。ご活用ください。

フィールドテスト参加申込書(2枚)は別紙同封します。

フィールドテスト実施細目

1 目的

- (1) 新しいコンセプトの録音図書をユーザに提案し、評価をいただく。
- (2) 新しいコンセプトの録音図書のサービス提供サイドの評価をいただく。
- (3) 新しいコンセプトの録音図書普及要件を掴む。

2 テスト概要

- (1) 日本も含め世界30ヶ国に、300台のデジタル録音図書読書機(PLEXTALK)を配布。デジタル録音図書と共にユーザにテスト使用して頂き、評価してもらう。
- (2) デジタル録音図書録音編集ソフトウェア「DAISY」を視覚障害者情報提供施設等に必要に応じて配布。テスト用デジタル録音図書を実際に制作し、評価してもらう。
- (3) 視覚障害者情報提供施設等では、世界統一「評価聞き取りアンケート」を責任を持って実施し、まとめて頂く。
- (4) フィールドテスト評価会議は中間(3月)と総括(6月)の2度行う。これら評価結果を踏まえ、次世代デジタル録音図書の標準化(8月)を計る。

3 実施機関

国際図書館連盟(IFLA)盲人図書館セクション(SLB)
DAISYコンソーシアム

4 開発推進機関

D A I S Y コンソーシアム (世界7ヶ国視覚障害者情報提供施設等機関)
プレクスター/シナノケンシ株式会社
スウェーデン国立点字図書館 (T P B)
英国盲人援護協会 (R N I B)

5 テスト協力機関

各国視覚障害者情報提供施設等機関
世界盲人連合 (W B U)、欧州盲人連合 (E B U)

6 フィールドテスト期間

D A I S Y ソフト 1996年11月～
デジタル読書機 (P L E X T A L K) 1996年12月～1997年5月

7 日本国内での実施

(1) 国内協力機関

- a. 全国点字図書館協議会 (会長 川越利信)
- b. 日本盲人会連合 (会長 村谷昌弘)
- c. 全国盲学校長会 (会長 林 正義)
- d. 国立身体障害者リハビリテーションセンター
(更生訓練所 所長 二瓶隆一 研究所 所長 山内 繁)
- e. 日本図書館協会 (事務局長 酒川令子)

(2) 実施機関

- a. 視覚障害者情報提供施設
日本点字図書館、日本ライトハウス、名古屋ライトハウス、埼玉点
字図書館、公募28単位を予定
- b. 一般図書館 公募3～4単位を予定
- c. 盲 学 校 県立岡山盲学校、筑波大学附属盲学校、公募校1を予定
- d. 国立身体障害者リハビリテーションセンター 所沢以下複数ヶ所を予定
- e. ボランティアグループ 公募3単位予定
- f. 大学入試センター

(3) 公募条件

3タイプのフィールド試験を用意します。うち1タイプをお選び下さい。
D A I S Y ソフトでのC D 録音図書制作試験作業。
デジタル読書機 (P L E X T A L K) を被試験者に試験使用いただく。
を併せてテストいただく。

1) 委員会で用意するもの

- A. D A I S Y ソフトを、別紙仕様パソコンを用意できる評価希望実施機関に
お渡しいたします。
- B. デジタル読書機 (P L E X T A L K) とデジタル録音図書C D 10タイトルを実施機

関に5組(セット)渡します。

—— (仮称)視情協通信 N A I I V 第7号 ——

2) 参加確認事項

- a. フィールドテストに自費参加いただけること。
- b. 地域ブロック毎に開催するフィールドテスト実施責任者説明会に参加いただけること。
- c. デジタル読書機(PLEXTALK)とデジタルCD録音図書を被試験者に届け、試験終了後回収し、さらに次の順番の他館へ5セットまとめて発送していただけること。
- d. デジタル読書機(PLEXTALK)の被試験者をできるだけ幅広いユーザ層に最低5名お願いできること。
- e. フィールドテスト被試験者への使用方法等の説明をしていただけること。
- f. デジタル読書機(PLEXTALK)評価「聞き取りアンケート」を被試験者にしていただけること。
- g. DAISYソフトに関し、録音、編集、アナログテープからデジタルへの変換作業に試験使用していただけること。
- h. DAISYソフトに関し、試験使用後評価意見をいただけること。

(4) 公募期間

10月28日(月)～11月1日(金)

(5) 公募申し込み書・申し込み先

別紙FAX用紙を極力お使い下さい。

(6) 試験依頼書

地域・人口など考慮の上決定し、11月初旬に書面にてご連絡いたします。

(7) 地域説明会を11月前半に予定しています。

(8) 各地域・ブロックでの最初のフィールドテストは12月初めから開始します。

備品購入申請説明書

1. 録音図書の新しい流れ — デジタル録音図書

今日まで視覚障害者情報提供施設ではテープに録音し、録音されたテープはマスターとして保管し、マスターをもとにしてコピーを行ったカセットテープを視覚障害者に提供しています。視覚障害者は借りたテープをテープレコーダーで再生し、録音による読書を行っています。これが従来のテープを中心とした一連のアナログシステムです。しかし、現在ではMD（ミニディスク）に代表されるように、録音機も含めた従来の各種機器にデジタル化の波が押し寄せつつあります。

視覚障害者情報提供施設の世界でも「国際図書館連盟」の盲人図書館部会では、視覚障害者の読書環境の標準化（デジタル化も含む）が検討されています。そのためのフィールドテストがこの12月から日本を含む世界約30カ国で一斉に実施されます。

日本国内では日本盲人社会福祉施設協議会点字図書館部会（全国点字図書館協議会）をはじめ、日本盲人会連合、国立身体障害者リハビリテーションセンター、盲学校なども参加し、実現促進のための評価研究を行うことになっています。この事業は厚生省関連の助成金を受け実施するもので、今後のシステムの開発、改良にはスウェーデン国立点字図書館を中心に日本を含む世界7カ国で設立されたコンソーシアムで行うことが決まっており、次年度後半から具体的な体制作りが始まります。

2. デジタル化の意義

今日さまざまな分野で、従来のアナログ技術をベースとした商品・ビジネスシステムが、デジタルベースへと移行しつつあります。身の回りでも先に述べたMD、8ミリビデオのデジタル化、まもなく発売されるDVD（デジタルビデオディスク）など、デジタル化の波はAV、OA、通信、出版などすべての分野に及んでいます。

デジタル化の大きな特徴は、安いコストで、高品質の、大量の情報を迅速に記録・提供できることにあります。この例としては、視覚障害者情報提供施設の世界でも「てんやく広場」を中心とした全国的なネットワークの構築が見られ、視覚障害者からも新しいサービス形態として高い評価を得ています。録音図書も視覚障害者の読書手段として点字図書をはるかに凌いでいる実状から、デジタル化による新しいネットワーク整備が早急に必要とされています。

3. 録音図書デジタル化の必要性

(1) ユーザー（視覚障害者）の立場から

- a. 自立、社会参加のための学習手段として、必要に応じて検索可能な読書環境が必要。

- b. 「国語辞典」「暮らしの百科」的な、日常生活に必要とされる各種情報を必要に応じて迅速に検索できる読書環境が必要。

—— (仮称)視情協通信 N A I I V 第7号 ——

- c. 録音図書を再生するにあたって、取り扱いが容易であり、高音質、なおかつ個々の理解の程度にあわせて速度調整が可能な機能を有するものが必要。

(2) サービス提供サイド(視覚障害者情報提供施設)から

- a. 製作機材として従来のアナログシステム(録音機、コピー機)、テープなどの製造が縮小される事が予測され、業務を続行するためには、デジタル機器への移行が必須である。
- b. 従来の録音テープ(特に保存用マスター)の劣化が進むことが予測される。図書の恒久的な保存のため、マスターを含めて劣化のないデジタル化が必要とされる。
- c. マスター、貸出用図書を含めた、書庫スペースが十分に取れない現状では、デジタルに移行することにより大幅なスペースの削減となり、従来のスペースの有効活用が可能となる。
- d. 予算が厳しい時代ながら、利用者からのサービス向上に対する要望は将来的にもより高まる事が予想される。デジタル化を行うことにより、将来的対応に柔軟性を持たせることができる。

4. デジタル化の具体案

(1) ユーザーが使用する「デジタル読書機」

- ・ほぼすべての図書が一枚のCDに収まる。(一枚のCDで53時間)
- ・カセットテープのように複数に分巻されないので、掛け替えが必要なく、取り扱いが容易である。
- ・一枚で一作品を収めているため、目次から瞬時に必要なところを聞くことが出来る。
- ・録音図書にページをつけることができるため、聞きたいページを電話と同様に直接テンキーから指定できる。
- ・「しおり」を30箇所につけることが出来るため、後での聞き返しが簡単に行える。
- ・2倍速までの速度の選択が可能なので、早聞きを含め、自分で理解しやすい速度の選択が可能。
- ・市販の音楽用CDを楽しめる。
- ・操作手順は音声でガイダンスされる。

(2) 視覚障害者情報提供施設での「デジタル録音・編集機」(次ページ参照)

- ・市販のパソコンをベースに使用。
- ・録音、編集に使われるソフトはスウェーデン国立点字図書館が開発したものの日本語版を使用。
- ・メディアとしては書き込みの出来るCD-R(シーディー・アール)ディスクを使用する。また、音声データは高速コピーが可能。
- ・保管にあたってはCDチェンジャーなどを使うことにより、デジタルとしての

トータルなシステムとしての活用が可能。

—— (仮称) 視情協通信 N A I I V 第7号 ——

